

ジオツーリズムのための自然環境教育プログラム：琉球大学における実践例

Physiographical education for geotourism: a case study of University of the Ryukyus

尾方 隆幸^{1*}

Takayuki Ogata^{1*}

¹琉球大学教育学部

¹University of the Ryukyus

琉球列島の自然環境は、亜熱帯性の気候と、その気候環境の下で形成されたサンゴ礁地形、さらにはサンゴ礁起源の石灰岩地形などに特徴づけられる。このような気候・地形環境は、地表面付近の水・土壌・植生の特性を決める基礎的な要因にもなっている。こうした自然環境の下で形成される景観は琉球列島ならではのものであり、それらはジオパークの資源になりうるものである。ところが、琉球列島ではジオパーク活動がほとんど行われていなかった。これは、琉球列島にジオパークになりうる資源がないためではなく、活動を起こす研究教育機関・自治体・企業がなかったためである。

ジオパーク活動において地球科学の研究者が取り組まなければならないことは、行政・企業・地域住民に対してジオパーク活動を周知・普及・啓蒙すること、ジオパーク候補地においてジオツーリズムのフレームワークを構築することであろう。また、その基礎として、地球科学的価値に基づいてジオサイトの適地を選定すること、ジオツーリズムのための教育プログラムを開発することも必要である。とりわけ、脆弱なサンゴ礁生態系を有する琉球列島では、まずしっかりしたジオツーリズムのフレームワークを構築するというステップが不可欠であろう。地元の地球科学の研究者は、観光客が自然環境に与える影響を最小限にし、かつ最大限の地球科学教育の効果が得られるジオツーリズムを作り上げなければならない。本発表では、この活動の萌芽的取り組みとして行っている、「ジオツーリズムのための自然環境教育プログラムの開発」について紹介する。

本研究は、発表者が担当している「琉球大学教育学部生涯教育課程自然環境教育コース」の授業「環境自然地理学演習」(ゼミ) および「環境自然地理学実習」(フィールドワーク)の一部に組み込まれて、2009年度より実施された。ゼミでは、琉球列島の中でジオサイトの適地になりうる場所(および地球科学的対象)を議論し、選び出されたジオサイト候補地の解説ポスターを作成した。フィールドワークでは、さらにジオサイト候補地を精選し、解説内容を野外(現場)で吟味するとともに、観光客に自然景観の仕組みや成り立ちを総合的に理解してもらえるジオツアーのあり方についても議論を進めた。これらの成果を「環境自然地理学」の講義にもフィールドバックさせている。2010年度の授業では、2009年度の成果を踏まえ、複数のジオサイトを結びつけたジオツアーのモデルルートの作成を試みている。今後、ジオサイトでの解説ポスターやジオツアーのルートマップとして成果をまとめ、公表する予定である。得られた成果は、当該地域でジオパーク活動を推進する原動力になるとともに、現地で半永久的に利用できる生涯教育プログラムにもなるであろう。また、この成果は、野外で実施される環境教育プログラムそのものでもある。アレンジを加えればジオパーク認定を目指す他地域で応用することも可能になるし、ジオツーリズムに限らず、生涯教育で行うべき自然環境教育のひとつのモデルにもなりうると考えている。

この一連の作業は、地表圏の総合的な地球科学である自然地理学のアプローチを最重要視し、同時に、自然地理学をベースにした環境教育を前面に出す方針で進められている。ジオツーリズムには、単なる環境教育の枠組みでは議論しきれない側面があり、地球科学の学問基盤に立脚した自然環境教育プログラムがどうしても必要である。さらに、ジオツアーのルートを設定する際には、単にジオサイトを繋ぐだけではなく、ジオパーク全域の自然景観の仕組みや成り立ちが系統的に理解できるようなストーリー性を考慮しなければならない。こうしたことを踏まえると、地表面に展開する自然景観を総合的に把握する自然地理学的アプローチはきわめて有効である。本研究の最大の特徴は「サイエンス（自然地理学）をベースにした自然環境教育プログラム」というところにある。

キーワード:ジオパーク,ジオツーリズム,地球科学,自然地理学,環境教育,琉球列島

Keywords: geoparks, geotourism, geosciences, physical geography, environmental education, Ryukyu Islands